

この記事・写真は岩手日報社の許諾を得て転載しています。

花北青雲がサヨナラ

延長 一戸、九回に同点も涙

【森山球場】
▽2回戦

一戸	2	0	0	1	0	1	0	1
花北青雲	1	0	3	0	1	0	0	0

0 | 5
1x | 6

(延長十回)
 (一) 米田、西野賢、土川一坂
 井 (花) 野中、佐々木勇一高橋
 困上平 (一)
 藤原幹 (花)
 西館 (一) 伊藤幸、滝田 (花)

【評】花北青雲が延長十回サヨナラでシーズンゲームを制した。5-5で迎えたこの回、滝田、藤井紀の連続安打などで1死二、三塁とし、伊藤幸が右前打を放ち試合を決めた。一戸は九回無死二、三塁で上平が犠飛を打ち5-5の同点とするも、あと一本が出なかった。

無しにせずよかった」と満面に笑みをたたえた。チームの主体は2年生。沢田監督から「3年は後輩に頼ってばかりで存在感がない」と厳しく指摘されたことも。伊藤は「悔しさを少しは晴らせた」と胸をなで下ろす。厳しい戦いに打ち勝ち波に乗るチームの次戦は昨夏県王者の盛岡大付。畠山峻主将(3年)は「甲子園に行くには必ず当

2年生が好機 3年生決めた

花北青雲・伊藤

執念の一打だ。「最後の夏を終わらせたくない。3年生として後輩に負けていけない」。花北青雲の伊藤幸之介(3年)は延長十回にサヨナラ打。「絶対に打てる」としか考えられなかった」とチームの意地、先輩の覚悟を見せつけた。この回1死二、三塁。打席に向かう伊藤の表情は決意に満ちていた。「あんな顔をされたら『思い切り打て』としか言えないよ」と沢田靖永監督。背中を押され、伊藤は「と

にかく悔いだけはないよ。三走滝田恭佑(2年)が「うに」と直球を振り抜いて、伊藤が振り抜いた。打球は右前に抜け、一塁生還。「2年生がつくった好機を台



一戸一花北青雲 10回裏花北青雲1死二、三塁、伊藤幸が右前へサヨナラ打を放つ。捕手坂井、球審菅野、森山

る相手。当然勝ちを狙う」と再び校歌を高らかに歌い上げる覚悟だ。(久慈) 稲荷の豪快な打撃に憧れ「とにかく本塁打にこだわってきた」と練習に明け暮れた。「ストライクが来たら打つ」と初球を思い切り振り抜き先頭打者アーチ。「試合開始のサイレンの中で打つことができた」と納得の表情だった。秋から自分たちの世代がチームを引っ張る。走

者がいたら必ず打てる打者になる」と、自らが大きな背中を見せる覚悟を示した。